【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2001-113805(P2001-113805A)
【公開日】平成13年4月24日(2001.4.24)
【出願番号】特願平11-298657
【国際特許分類第７版】
　Ｂ４１Ｊ　29/46
　Ｂ４１Ｊ　 2/52
　Ｈ０４Ｎ　 1/401
【ＦＩ】
　Ｂ４１Ｊ　29/46　　Ｄ
　Ｂ４１Ｊ　 3/00　　Ａ
　Ｈ０４Ｎ　 1/40　　１０１Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成16年11月25日(2004.11.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　複数の記録素子を有する画像形成装置の出力特性に応じて補正した閾値マスクを用いて画像データをハーフトーン処理し、前記画像形成装置に供給する画像処理装置であって、
　前記画像形成装置の前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の濃度値に基づいて、前記出力特性を解析する出力特性解析手段と、
　前記解析した出力特性に基づき、前記ハーフトーン処理に用いる閾値マスクを補正し生成するマスク生成手段と、
　前記画像形成装置に出力する画像データに対し、前記生成されたマスクを用いてハーフトーン処理を行ない、処理後の画像データを前記画像形成装置に供給する供給手段とを有し、
　前記マスク生成手段は、前記出力特性解析手段で解析された出力特性で重み付けされたポテンシャルを用い、前記閾値マスクを生成することを特徴とする画像処理装置。
【請求項２】
　前記出力特性が前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の平均濃度であることを特徴とする請求項１記載の画像処理装置。
【請求項３】
　前記出力特性が前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の平均濃度が所定値を超えたラインの重心であることを特徴とする請求項１記載の画像処理装置。
【請求項４】
　前記出力特性解析手段が、前記出力結果を読み取る画像読み取り手段と、
　前記読み取り結果から、ライン毎の平均濃度を検出する濃度検出手段とを有することを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の画像処理装置。
【請求項５】
　請求項１乃至請求項４のいずれか１項に記載の画像処理装置と、画像形成装置とからなる画像形成システム。
【請求項６】

複数の記録素子を有する画像形成装置の出力特性に応じて補正した閾値マスクを用いて画像データをハーフトーン処理し、前記画像形成装置に供給する画像処理方法であって、
前記画像形成装置の前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の濃度値に基づいて、前記出力特性を解析する出力特性解析ステップと、
前記解析した出力特性に基づき、前記ハーフトーン処理に用いる閾値マスクを補正し生成するマスク生成ステップと、
前記画像形成装置に出力する画像データに対し、前記生成されたマスクを用いてハーフトーン処理を行ない、処理後の画像データを前記画像形成装置に供給する供給ステップとを有し、
前記マスク生成ステップは、前記出力特性解析手段で解析された出力特性で重み付けされたポテンシャルを用い、前記閾値マスクを生成することを特徴とする画像処理方法。
【請求項７】
前記出力特性が前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の平均濃度であることを特徴とする請求項６記載の画像処理方法。
【請求項８】
前記出力特性が前記複数の記録素子の各々が記録したライン毎の平均濃度が所定値を超えたラインの重心であることを特徴とする請求項６記載の画像処理方法。
【請求項９】
前記出力特性解析ステップが、前記出力結果を読み取る画像読み取りステップと、
前記読み取り結果から、ライン毎の平均濃度を検出する濃度検出ステップとを有することを特徴とする請求項６又は請求項７に記載の画像処理方法。
【請求項１０】
コンピュータ装置が実行可能なプログラムを格納した記憶媒体であって、前記プログラムを実行したコンピュータ装置を、請求項１乃至請求項４のいずれか１項に記載の画像処理装置として機能させることを特徴とする記憶媒体。
【請求項１１】
請求項６乃至請求項９のいずれか１項に記載の画像処理方法を、コンピュータ装置が実行可能なプログラムとして格納したことを特徴とする記憶媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
【課題を解決するための手段】
すなわち、本発明の要旨は、複数の記録素子を有する画像形成装置の出力特性に応じて補正した閾値マスクを用いて画像データをハーフトーン処理し、画像形成装置に供給する画像処理装置であって、画像形成装置の複数の記録素子の各々が記録したライン毎の濃度値に基づいて、出力特性を解析する出力特性解析手段と、解析した出力特性に基づき、ハーフトーン処理に用いる閾値マスクを補正し生成するマスク生成手段と、画像形成装置に出力する画像データに対し、生成されたマスクを用いてハーフトーン処理を行ない、処理後の画像データを画像形成装置に供給する供給手段とを有し、マスク生成手段は、出力特性解析手段で解析された出力特性で重み付けされたポテンシャルを用い、閾値マスクを生成することを特徴とする画像処理装置に存する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】

また、本発明の別の要旨は、複数の記録素子を有する画像形成装置の出力特性に応じて補正した閾値マスクを用いて画像データをハーフトーン処理し、画像形成装置に供給する画像処理方法であって、画像形成装置の複数の記録素子の各々が記録したライン毎の濃度値に基づいて、出力特性を解析する出力特性解析ステップと、解析した出力特性に基づき、ハーフトーン処理に用いる閾値マスクを補正し生成するマスク生成ステップと、画像形成装置に出力する画像データに対し、生成されたマスクを用いてハーフトーン処理を行ない、処理後の画像データを画像形成装置に供給する供給ステップとを有し、マスク生成ステップは、出力特性解析手段で解析された出力特性で重み付けされたポテンシャルを用い、閾値マスクを生成することを特徴とする画像処理方法に存する。